

1. 日時 令和3年 11月 24日(水) 15:00-17:00

2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室

3. 出席者(委員)

梅田和子委員(会長)、大西啓嗣委員、篠崎静夫委員、山口照美委員、加藤曜子委員、安東沙織委員

4. 主な内容

- ・各課程による令和3年度学校経営計画進捗状況の報告
- ・令和4年度 教科書採択について

5. 説明・協議

[定時制の課程 I・II部]

説明

○教科書採択の一覧の確認

○現状 本年度当初は生徒数 294名在籍。退学者 24名、前期卒業者 23名、後期入学者 6名の変動があり
11月1日時点で 253名が在籍。令和5年9月の閉部に伴い減少傾向にある。

⇒ 単位取得が進まない生徒は長年在籍している傾向があるため、卒業後の進路につなげる。

○進路指導 就職状況 今年度4月当初調査

就職希望者29名(学校斡旋10名、自己開拓6名、公務員2名、未定ほか11名)、

進学希望者59名(大学19名、短大1名、専門学校20名、医療看護4名、未定15名)

11月9日時点での進路決定状況

就職状況 学校斡旋就職内定者7名、二次斡旋をしている生徒2名。

進学状況 指定校推薦、公募制推薦で受験中のため、詳細については第3回協議会で報告の
予定。

○中間的目標 保護者等との連携 前期保護者懇談280名中126名実施(実施率45%)

家庭訪問実施件数25件

⇒懇談会実施率が低下している。連絡がつかない家庭が増加していること
が一因か。

HP 更新回数30回

職員研修 11月9日同和問題HRに向けた研修。教材はNHK番組「バリバラ」

12月7日支援教育研修

前期授業見学週間 6月21日から7月15日に実施。

授業見学者数43回、初任者公開授業2回。

⇒ 授業見学者数60回を目指したい。

学校行事

校外学習 10月14日 天王寺公園・茶白山 大阪夏の陣スタンプラリー

78名が参加、肯定率92%

文化祭 11月4日 ゲーム・展示部門を中心に(飲食は未実施)

88名参加、肯定率94%

球技大会 12月22日〔予定〕6/17 体育祭中止の代替行事

種目はバドミントン・卓球・ボッチャを予定。

○ICT教育 Chromebook の活用

世界史Bの授業で Jamboard を用いた意見の共有、思考ツールの活用、
Googleform で振り返りなどを行った。授業の感想は肯定的な意見が多い。

協議

①質問:退学者増加の要因は。新型コロナウイルスとの関係性はあるかどうか。

答え:要因はいくつか考えられるが、まず令和5年度閉部の影響、次に在籍期間を超えた生徒、そして、連絡がつかない生徒、所在不明の生徒の存在である。連絡の取れない生徒については、在籍期間の満了と同時に事務的に退学の手続きを行うことになる。生徒が属する自治体にも連絡をし、行政からのアプローチも行っていただいているが、特に成人の生徒への対応は難しい。

要望:連絡がとれない生徒が気になる。若者支援の観点からも可能な限り自治体に一報をいれてほしい。

②質問:アルバイトなど生徒が働く場所、困った際に相談する場所が必要である。コロナ禍で友達ができないという若者がいるので、校外学習は友人づくり、居場所づくりは有意義である。今後の活動を期待している。

答え:SSW など福祉との連携を深めているところである。

③質問:就職も進学もしない生徒への指導はどうしているのか。

答え:決めかねている生徒は経済的な課題を抱える生徒が多い。担任や係りにより日本学生支援機構などの奨学金の申込を勧めている。卒業までに決まらない生徒に対してはハローワークと繋がる機会を設け卒業後の進路に繋がるよう指導に努めている。

提案:(大阪市若者自立支援事業の)「コネクションズ大阪」とつなげてはどうか。

④質問:Chromebook の取り組みについて、授業での活用など詳細を聞きたい。

答え:まだ、組織化されたばかりで未熟な点が多い。遠隔授業は未実施であるが、今後に期待している。

報告:Microsoft「Teams」アプリを用いた指導を行う中学校もある。教員との日記でのやり取りなど書くことの苦手な生徒が臆することなく気持ちを表現する手段となっている。特に日本は先進諸国の中で家庭のPC

環境の整備が遅れていると言われており、生徒のタイピング技術には大きな差が見られる。今後、ICT 教育の一斉導入はそのようなタイピング指導からでも期待ができる。

提案: 登校できない生徒がオンラインで授業に参加できるようになれば卒業への道が広がるのではないか。

議長総括: Chromebook の活用に大いに期待したい。

[定時制の課程 Ⅲ部]

説明

●学校経営計画の進捗状況について

○クラブ活動報告

*軟式野球部の活動報告(ⅠⅡ部の報告での詳細)

本年度よりⅠⅡ部とⅢ部だけでなく、通信課程の生徒も入部し 10 名に。なかなか人数が揃わなかったが、予選を勝ち抜き全国大会へ出場。コロナ禍での大会となったが部員全員で出場することができた。だが、2 回戦で敗退。生徒たちは悔しがっていたが、生徒の仲も深まり大変良い経験となった。

秋の大会にも参加し、予選も勝つことができた。ⅠⅡ部縮小のため生徒も減っているが、来年も参加したい。そのための環境を整えていきたい。

○教科書採択の一覧の確認

○生徒の在籍状況

・4月当初の在籍は 111 名であったが、秋卒業生及びそれまでの退学生、10 月に入学した生徒を含め現在は 100 名となっている。また、外国籍生徒数は 25 名で府立高校の中で比率が高い。

○新型コロナウイルス感染症の影響

・保健所がひっ迫している状況もあり、4月15日から末日までの間に約9日間の臨時休業となった。

そのため、行事等の変更を余儀なくされ、前期中間・期末考査の実施期間を従来の4日間から3日間にした上で、日程を約1週間延期した。体育祭も1週間延期なり、5月14日に予定していた遠足も12月17日に延期することになった。

・生徒の出席停止は現在までで23名となっている。(1時間の出席停止でも1日とカウントしている)

めざす学校像

- ①確かな学力の育成及び教員の授業力向上 ②キャリア教育及び進路指導の充実
- ③豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成 ④学校運営体制の確立及び人材の育成

①確かな学力の育成及び教員の授業力向上

令和3年度前期授業アンケート結果

- ・満点 4.0 ポイント中、平均 3.6 ポイントで高い数値であった。

○観点別学習状況評価検討チーム進捗状況

- ・3 観点での評価方法について議論ののち、8 月 26 日に第 1 回教員研修を実施。研修内容は 3 観点について・評価の重み・評価方法の確立についての准校長講話ののち、グループワークにて「身に付けさせたい力」からそれを「どう今後生きるか」、それを「どう評価」するかを考え意見を出し合った。

今後は後期の授業で検討チーム以外の教員にもどのように観点別評価をしていくかを授業で取り組んでもらうとともに、検討チームを中心に 3 観点でどのように評価をつけるのか、評価を学期評定へ変化する方向性をまとめる。第 2 回教員研修または会議で方針を議論・決定していく。

○新カリ検討チーム進捗状況

- ・令和 7 年度完全移行案を作成したのちに令和 4 年度案の作成をし、生涯学習コース、中卒 3 年(併修利用)、中卒 4 年、中卒 4 年基礎コースなどのモデルカリキュラムを作成し、単位制の特徴である多様なニーズに応えることのできるカリキュラム編成を行った。現在、令和 5 年度と 6 年度の移行計画を作成中。

○GIGA スクール構想における生徒 1 人 1 台端末の活用

- ・8 月 25 日に 113 台が納入されるが、全員が持ち帰り利用をしているわけではない。(持ち帰りはごく少数)
- ・いくつかの授業で使用しており、どのようなアプリを使用するかについては検討の余地あり。
- ・感染症や災害の発生時等の非常時におけるオンラインを活用した学びの保障試行実施を文化祭での 4 年次団企画の 1 つ「みんなで作るハートの輪」として実施。生涯学習の生徒もとても興味津々の様子であった。

○教員相互の授業見学

- ・前期、後期と約 1 か月の期間を設け実施している。前期の総見学数は 29 で、少し少なかった。後期は目標を 40 とし、1 教員 2 回の授業見学を目指したい。

○スクールソーシャルワーカー等の活用とその状況について

- ・スクールソーシャルワーカー、自立支援アドバイザー、スクールカウンセラーを活用し生徒の支援を行っている。また NPO 法人による「かめカフェ」という居場所作りにも取り組んでおり、生徒の 1 割程が利用している。

○進路状況

- ・外部人材を活用し、卒業予定生で特に斡旋就職希望者のヒアリングを行い、求人検索や自己PR作成等でのアドバイスを中心に活動してもらっている。
また、進路説明会に保護者にも参加してもらっていて、保護者との連携はよくなっている。
- ・就職状況は10月時点での斡旋就職希望者は7名で、うち4名がすでに内定を得ている。
現在、就職活動中の生徒は3名で、うち2名は結果待ちである。
- ・進学状況は10月時点での進学希望者は5名。
四年制大学希望者は2名で、うち1名は合格内定を得ている。
専門学校希望者は3名で、短期大学希望者は0名である。
- ・その他の進路として、家業継承や現在の仕事を継続する生徒もいる。

○部活動の状況

- ・軟式野球部以外にも活動しており、部活のブログも更新し、紹介している。生徒の増加につながれば。

○人権推進委員会 2021年度活動

- ・新着任の教員に、在留資格とアイデンティティーに関わること、地域の歴史や夜間中学校についての研修を行っている。
- ・教員全体には、今年度は部落差別についての講演を行ってもらった。また、毎職員会議、連絡会後に本校の外国にルーツをもつ生徒の国の言語を学び、多文化理解や生徒理解に繋げるため、ひとこと会話を実施している。
- ・生徒向けには、年次ごとに異なるテーマを設定し、年次があがるにつれ必要な事柄について学んでいる。
(例:4年次は就職に関する人権学習)

○運営委員会・職員会議の時間記録

- ・会議の時間を短くすることを目指し、60分を上限とし取り組んでいる。平均すると目標を達成できており、教員にもその意識が浸透してきている。

協議

①質問： 外国籍の生徒の日本語能力はどうか。不得手な場合、通訳などのサポートは配置されているのか。また、就職時に発達障がいがあるなどでマッチングに支援が必要な生徒にはどのような支援をおこなっているのか。

答え： 日常会話はできるが、授業は難しい生徒もいるので、日本語の講座を選んでもらっている。またどの生徒が不得手なのか情報共有し、支援を行っている。就職も最適な進路について支援アドバイザー等と連携を取り支援している。

②要望： 夜間中学でネパールの人が急増している。日本語が日常会話も厳しい。大半が高校進学を考えている。お世話になる可能性がある。

答え： 増えているという認識はある。

③意見： 生野区ではベトナムの人が増えており、今後子育て世代が増える可能性が高い。企業含め教育支援をお願いしており、中学校ではポケットークのような翻訳機を利用しているところもある。

答え： いただいた情報を校内で共有いたします。

④意見： 授業アンケートの評価が高いのは良い事である。

答え： 授業見学数を増やし、さらなる高みを目指したい。

⑤意見： かめカフェは良い取り組みである。

答え： かめカフェが生徒同士の会話のきっかけとなった例もある。

[通信制の課程]

説明

●生徒の活躍の紹介

- ・全国高等学校定時制・通信制体育大会の卓球大会にて全国3位
- ・ソフトボール部2名が定時制野球部と一緒に全国大会に出場
- ・定時制・通信制高等学校生徒秋季発表大会にて、書道部、文芸アニメ部、パソコン写真部が知事賞を受賞
- ・10月に2年ぶりに体育祭を開催。希望制で例年より多くの生徒が参加。

●学校経営計画の進捗状況 ポイント

①運営委員会の活性化

- ✓ 昨年度の全国一律休校の際、ベテラン教員中心の有志の集まりで場当たりの対応になり、運営委員会を効果的に活用できなかった
→今年度の4月の休校時は運営委員会が中心となって、組織的に対応することができた
・運営委員会のメンバーも自分たちが学校運営のエンジンであるという意識改革が進んだ
- ✓ 運営委員会で昨年度に引き続き、学校の課題について分掌を通して話し合いを実施
→昨年度は組織的な学校運営がテーマ。今年は転退学や除籍など、学校を続けられなくなった人数の推移を一覧にして話し合いを実施。現在集約したものを運営委員会におろしている。

課題 限られた時間の中でどうやって分掌間の情報共有をしていくか？

→職員会議の前日に運営委員会を開催。議題整理が中心になり、長期的な展望を語れていない。
今後、臨時の運営委員会を開催するとか、メールを活用するなど工夫していきたい。

②ICT化

1、成績処理を中心とした校務処理システムの問題

通信制では府立高校共通の校務処理システムは使えず、独自のシステムで運営している。システム制作者の退職により、引き継げる教員がほとんどいない状況。

→次年度から新教育課程に向けて、今年、ICT委員会を立ち上げ。顧問として非常勤が月2回来校。システム構築を急ぎたいが、先日NASが故障するなど、府内に一校しかない通信制ということで右往左往している現実あり。

2、1人1台のChromebookの活用

・全生徒分(1800台)が教育庁から配布されたところ。通信制は毎日登校することが前提でないため、配布方法や紛失時の対応など管理が課題。年度末に教室に充電保管庫が配備されるので、次年度からスクーリングで活用していく予定。

・生徒一人ずつにグーグルアカウントを配布。自分の携帯から担任と直接やりとりが可能に。生徒連絡は基本的に郵送だが電話も多く、グーグルクラスの定着で電話が減れば働き方改革にもつながるのでは。

・ICT委員会による教員研修も実施。試行として教員間のクラスルームも作り、一部での活用開始。

課題 ICT委員会の業務内容の増加

→校務処理システム構築以外にChromebook配布により研修の運営などの新たな業務が増加。限られた人材をいかに割り当てていくか。

③観点別評価に向けたレポートの改訂 スクーリング力の向上

1、観点別評価に向けたレポートの改訂

教科代表者会議で大急ぎで進めている状態。当初は開設しない方向だった中国語を、桃谷というセーフティネットの学校で閉じていいのかという議論から開設の方向へ。

2、スクーリング力向上

◎SPT(研究スクーリングプロジェクトチーム)

・昨年度7名→今年度14名(このうち6名は初任者と若い常勤講師)

・研究スクーリングや若桃塾の運営→従来の受け身の研修から主体的に学ぶ研修へと転換

・全国の公立通信制高校へのアンケート調査を実施

→他校のスクーリングの実態や教員の資質向上の取り組みなどを把握。集計結果は他府県の通信制高校と共有。

◎若桃塾

・若者の桃谷の先生が集まって勉強会(調査書の書き方、受講指導の方法など)

⇒校内初任者研修を含め、この3つを指導教諭が担当し、スクーリング力の向上や通信制教員としての資質向上を担っている。また、参加者の横のつながりも作り、教員の交流にも取り組んでいる。

●教科書採択の一覧の確認

協議

①質問： 運営委員会は何人？

答え： 各分掌代表、人権、首席、指導教諭、教頭、准校長の12人。

②要望： Chromebook1800台をぜひフル活用していただきたい。そのため、基礎研修講座などを設けて、ある程度使い方を理解できるようにトレーニングが必要。また、ローマ字入力ができない学生が多い中、トレーニングにもなる良いチャンスかと。入力講座なども設けていただけたら。

③質問： 端末の持ち帰りは、学校判断にまかされているのか？桃谷高校こそ活用し、自宅学習の分を出席の単位として認定できれば、もう少し卒業のハードルを低くすることができるのでは？YouTubeなどで使い方を学ぶことができるし、そういう練習をすることが職業の資質にもつながっていくと思うので、ぜひ研究していただきたい。

答え： コロナで休校になった際の自宅学習用にとということで持って帰らせることありきで物事が始まっている。通信は元々が家で学習するスタイル。人数が多く、年齢層や家庭環境も様々なので、使い方がわかって初めて持って帰れるのかなと思っている。まずスクーリング時に生徒に触らせる、それから持って帰ることになるのかなと考えている。今年度の終わりに充電保管庫が府から入り、来年から使える予定。教員にも Chromebook が配布されており、若い教員はスクーリングで YouTube をよく使っている。同じように生徒も自分のタブレットで見れるようになったらもっと活用の幅は広がるのかなと思う。

④要望： 通信制はセーフティネットの側面もあり。28歳の時に繋がれる人であってほしい。人と繋がる力というのは人を信用する力。区内の小・中学校では系統だてて、「生きる教育」をやっている。デートDVについてやライフストーリーワークなどを通し、友だちを福祉資源にすることを伝えている。小・中と比べ、高校はやはり取りこぼされているため、そういう意味でも大事な学校。ICTもうまく使いながら、繋がれる力をぜひつけていただきたい。

[全体をとおして]

夜間学級の生徒にタブレット配布。若い生徒にはどんどん使ってもらっていたが、年配の生徒には活用を促していなかったところ、ぜひ使用したいと申し出があった。年配の方はタブレットより紙の教材が良いという思い込みを実感した。